

## 令和5年度第2回「弥富市地域公共交通活性化協議会」 議事録

日時：令和5年11月6日（月）

午後2時から

場所：弥富まちなか交流館3階市民ホール

### ○議 事

#### 1.開会

事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"><li>・定刻となった。ただいまから、令和5年度第2回弥富市地域公共交通活性化協議会を開催する。</li><li>・本日の協議会は委員総数21名のうち、18名の出席をいただいております、協議会規約第9条第1項に定める半数以上の定数に達しているため、会議が成立していることを報告する。</li><li>・また、当協議会は協議会規約第9条第3項により、会議を公開とする。</li></ul>
---------------	---

#### 2.あいさつ

事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"><li>・最初に、安藤市長よりご挨拶申し上げます。</li></ul>
安藤市長	<ul style="list-style-type: none"><li>・本日は第2回目となる弥富市地域公共交通活性化協議会にご出席いただき感謝申し上げます。</li><li>・3連休いいお天気で、各地では多くのイベントが開かれた。本市においても海南こどもの国で3日間秋まつりを開催し、連日たくさんの方にご来園いただいた。金魚すくい1つ例に取ってみると、3日が約800名、4日が1200名、5日は1300名の方に金魚すくいを楽しんでいただいた。この方々が弥富の金魚に対して発信していただき、金魚の愛好者が増えることを願っている。今後ともこのようなイベントを開催していきたい。</li><li>・本日は、第3期となる南部地域の社会実験について協議いただく。チョイソコやとみも順調に推移しているという報告を受けている。今月いっぱいの社会実験ということで、中間報告を受けて今後どうしていくか改めて皆様方にはご相談したい。</li><li>・今年も無料お試し乗車券を配布した。きんちゃんバスをもっとたくさんの方に知っていただき、利用していただきたい。</li><li>・この後は山崎先生のもと、忌憚のないご意見を賜りたい。限られた時間であるが、よろしく願いたい。</li></ul>

#### 3.資料確認

事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"><li>・本日の会議資料の確認を事務局よりお願いする。</li></ul>
事務局 (富居)	<ul style="list-style-type: none"><li>・会議資料の確認をする。</li><li>・事前にお送りした資料として、</li><li>・資料1：委員名簿</li><li>・資料2-1：第3期南部地域社会実験運行について</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 2-2：地域の企業や目的地停留所設置施設を対象としたアンケート（案）</li> <li>・資料 3：無料お試し乗車券配布結果について</li> <li>・資料 4：総合福祉センター工事休館に伴うきんちゃんバス無料乗車券の配布について</li> <li>・資料 5：チョイソコやとみの停留所の新設・移設について</li> <li>・参考資料 1：利用者実態調査結果</li> <li>・本日机の上に、配席表、愛知県交通対策課より「マイルート愛知」と「エコモビリティ実践キャンペーン 2023」のチラシをお配りしている。</li> <li>・不足はないだろうか。</li> <li>・資料 1 の委員名簿に記載のとおり、三重交通（株）桑名営業所長の人事異動に伴い、令和 5 年 7 月 12 日付で中川様を本協議会の委員に委嘱している。</li> <li>・これより座長の山崎先生に交代する。</li> </ul>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11 月に入ったというのに今日の蒸し暑さで体調を崩さないようにご自愛いただきたい。</li> <li>・この地域は道路が便利になった。休日は京都に行っていて、帰ってくる時に有料道路・高速道路等ルートが何通りもある。3 連休の最終日で東名阪が渋滞していた。それを避けるために 2 通り迂回のルートがあってすごく便利になったと実感している。</li> <li>・道路は便利になってきたが、公共交通も複数の手段があるとよい。南部ルートは複数の手段がしっかりあり、便利な状況であるが、お金がすごくかかっている。その辺のバランスを考えながら今後の方針を考えていく必要がある。</li> </ul>

#### 4.議題

##### (1) 第3期南部地域社会実験運行について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は議題が 5 つある。</li> <li>・第 3 期南部地域社会実験運行をまさに実施している。この中間報告をしていただき、今後の方針について意見をいただきたい。</li> <li>・議題（1）について事務局から説明をお願いします。</li> </ul>
事務局 （富居）	<p>○資料 2-1 説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 3 期南部地域社会実験運行について、資料 2-1 と資料 2-2 をもとに説明する。</li> <li>・資料 2-1、1 ページ目、第 3 期南部地域社会実験運行の概要を記載している。</li> <li>・前半部分には現在実施している第 3 期南部地域社会実験運行の運行期間や運行日時、乗車受付、運賃、運行車両などについて記載しているが、詳細の説明は省略する。</li> <li>・第 3 期南部地域社会実験運行の評価・検証について、本社会実験運行では本格運行するか否かを確認するための指標として、「公共交通利用者数の増加」という社会実験運行目標を設定している。具体的には「既存</li> </ul>

	<p>南部ルート+第3期社会実験運行の利用者数が実験前の既存南部ルート利用者数よりも増加しているかどうか」を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・また、社会実験運行目標とは別に、本格運行に向けて市民や事業者の実態を把握するための項目を5つ設定している。</li> <li>・チョイソコやとみ利用者を対象とした項目として、(株)アイシンが集計している利用者データより「1日あたりの利用者数」や「実験期間内の会員登録者数」、「乗合率」が基準値よりどうかを検証する。各データの基準値は記載のとおりである。</li> <li>・チョイソコやとみ会員登録者を対象とした項目として、「アンケート調査による利用者ニーズの把握」がある。本アンケート調査は8月に実施済みである。調査結果を後ほど説明する。</li> <li>・大藤・栄南学区の住民を対象とした項目として、「アンケート調査によるチョイソコやとみの認知度及び利用に関わる状況の把握」がある。こちらのアンケート調査も8月に実施済みである。調査結果を後ほど説明する。</li> <li>・きんちゃんバス南部ルート利用者を対象とした項目として、「アンケート調査によるきんちゃんバスからチョイソコやとみへの転換可能性の把握」がある。こちらのアンケート調査は9月に実施済みである。調査結果を後ほど説明する。</li> <li>・地域の企業や目的地停留所設置施設を対象とした項目として、「アンケート調査によるチョイソコやとみの協賛金への関心度の把握」がある。こちらのアンケートは令和6年1月に実施予定で、後ほどアンケートの実施方針や調査票案について説明する。</li> <li>・これらの社会実験運行目標や検証項目について、実験期間の後半ではあるが、中間評価として報告する。</li> <li>・2ページ、チョイソコやとみの6月～9月までの運行実績である。</li> <li>・毎週火・金の運行で、稼働日数は、6月が9日、7月が8日、8月が9日、9月が9日であった。</li> <li>・1日あたりの予約件数は、6月から7月にかけて増加、7月から8月にかけて減少したが、8月から9月にかけて約3件増加している。</li> <li>・1日あたりの利用者数は、6月から7月にかけて横ばい、7月から8月にかけて減少しているが、8月から9月にかけて約4人増加している。参考だが、8月については、8月15日の台風7号の影響で、運行してはいたが、利用者がいなかった日が1日あった。</li> <li>・同乗者数は6月が一番多く、2番目に9月が多くなっている。</li> <li>・乗合率は、6月から7月にかけて微増、7月から9月にかけて横ばいとなっている。</li> <li>・予約不成立件数は、6月から8月にかけて6件で横ばいとなっていたが、9月は3件と減少している。</li> <li>・グラフの下に注釈で記載しているが、乗合率は「乗車時の合計人数÷合計区間数」の定義でシステムによって自動で計算した値になる。また、合計区間数には1人も乗車していない区間は含まれてない。</li> </ul>
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注釈に例を記載しているが、例えば、車両が停留所を「A→B→C→D」と順に移動し、このうちAから3名乗車し、Bで1名乗車・1名降車し、Cで1名降車し、Dで2名降車する場合、利用者が乗車していた区間は3区間で、その間4名乗車していたため、乗車率は<math>4 \div 3</math>で1.33となる。</li> <li>・各検証項目の目標値に対する現状値の状況はページ最下段の表に記載のとおりである。</li> <li>・1日あたりの利用者数は13.6人で目標の15人に及ばず、目標未達成となっている。</li> <li>・実験期間内の会員登録者数は541人で目標の500人を超えており、目標を達成している。</li> <li>・乗合率は1.5で目標値以上であり、目標を達成している。</li> <li>・3ページ、停留所別の乗降数を6月から9月の合計値として集計し、可視化した。</li> <li>・乗降数が51人以上の利用者が非常に多い停留所は、中心市街地エリアでは「ウイングプラザパディー」、「生鮮館やまひこ 弥富店」、大藤学区では「寛延16」、また、乗降数が21人以上の利用者が比較的多い停留所は、中心市街地エリアでは「近鉄弥富駅」、「海南病院」、「ザ・ビッグエクストラ弥富店」や「弥富市役所」、大藤学区では、「中川団地3」、「加稲2」、「稲元7組③」、「森津6」である。</li> <li>・栄南学区では、「鍋田2」の利用者が一番多いが、乗降数が21人以上の停留所はない。</li> <li>・どの学区にも利用者が0人の停留所が見られる。</li> <li>・6ページ、ここから各種アンケート調査の集計結果となる。</li> <li>・6ページ目の上段には各調査の実施概要を示している。実施時期や対象、配布・回収方法、回収数等は記載のとおりである。この場での説明は省略する。</li> <li>・1) チョイソコ会員登録者アンケート結果について、チョイソコやとみの利用有無について、利用したことがある人は15.6%と少なく、会員登録はしているものの、利用していない人が多い印象である。</li> <li>・どのような状況になればチョイソコやとみを利用するかについて、「自分で車やバイクを運転できなくなったら」「家族などに車で送迎してもらえなくなったら」の回答が多い。</li> <li>・「運賃が安くなれば」と回答した人が思う妥当な運賃は200円が一番多くなっている。</li> <li>・「運行日数が増えれば」と回答した人が思う妥当な運行日数は7日(毎日)が一番多く、次いで3日、5日が多くなっている。</li> <li>・「運行の時間帯が長くなれば」と回答した人が思う妥当な運行時間帯は8時～18時が一番多く、次いで7時～19時、8時～20時が多くなっている。</li> <li>・7ページ、社会実験運行中の今後のチョイソコやとみの利用意向について、利用したい人は29.1%であり、今後新規利用者の獲得が見込める。</li> <li>・一方で「どちらともいえない」と回答した人が54.4%と多く、これらの人は日常生活において車やバイクで移動をしており、移動に困っていない。</li> </ul>
--	---

	<p>いことがわかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チョイソコやとみの利用頻度について、「試しに1回だけ利用」「月に1日程度」と回答した人が多くなっている。</li> <li>・大藤学区には「週に2日」と回答した人が2名おり、運行日は毎回利用している人もいる。</li> <li>・試しに利用して、その後使わなかった理由では、「利用したい曜日や時間帯に運行していない」と回答した人が多くなっている。</li> <li>・8ページ、同乗者割引の認知度について、同乗者割引を知っている人は約8割と比較的多くの方が知っている印象である。</li> <li>・チョイソコやとみの利用目的について、「買い物」「公共施設への用事・利用」「通院」の順に回答が多く、きんちゃんバス南部ルートの利用目的とは異なることがわかる。</li> <li>・チョイソコやとみの主な利用方向と利用しない方向の移動手段について、主な利用方向は「両方」と回答した人が一番多くなっている。また、利用しない方向の移動手段は、「車（自分での運転）」が一番多く、「きんちゃんバス」も見られる。</li> <li>・9ページ、チョイソコやとみの満足度について、「満足」「やや満足」と回答した人の合計が約8割を占めており、満足度は高い傾向にある印象である。</li> <li>・チョイソコやとみの良いところ・悪いところについて、良いところは「直接目的地に行ける」「自分の都合に合わせて利用時間を決められる」「停留所が近い」が多く、悪いところは「料金が安い」が多くなっている。また、悪いところの「その他」として、週の運行日数に関するものが多くなっている。</li> <li>・10ページ、チョイソコやとみを利用する以前の移動手段について、「車（自分での運転）」「車（家族の送迎）」「きんちゃんバス」が多くなっている。</li> <li>・希望する時間に予約が取れなかった場合の対応について、「家族に送迎を頼んだ」「きんちゃんバスを利用した」「タクシーを利用した」の回答が見られる。</li> <li>・11ページ、実験中の運行について、運行曜日（回数）は「妥当である」と回答した人が約30%で、60%以上が「少ない」と回答している。</li> <li>・運行時間帯は「妥当である」と回答した人が約35%で、半数以上が「短い」と回答している。</li> <li>・予約受付時間は「妥当である」と回答した人が約75%で、「短い」と回答した人は少なくなっている。</li> <li>・チョイソコやとみが飛島公共交通バスと乗り換え可能なことについて、利用したことがある人はおらず、知っている人は約30%と低い印象である。また、学区別では乗り換え可能な停留所が近い栄南学区の認知度が高くなっている。</li> <li>・12ページ、きんちゃんバス、チョイソコやとみの運行の必要性について、「両方必要」と回答した人が一番多く、約70%を占めている。</li> </ul>
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チョイソコやとみの利用有無別では、利用したことが無い人のほうが「両方必要」の回答割合が高くなっている。また、チョイソコやとみを利用したことがある人は「チョイソコやとみのみ必要」の回答割合が高く、利用したことがない人は「きんちゃんバスのみ必要」の回答割合が高くなっている。</li> <li>・さらに、チョイソコやとみを利用したことがある人のうち、以前きんちゃんバスを利用していた人は「両方必要」の回答割合が高くなっている。</li> <li>・今後の市の費用負担について、「市の費用負担を増やして実施すべき」「市の費用負担に関わらず実施すべき」という回答が多い中で、「現状の市の費用負担のまま実施すべき」という回答も多くなっている。</li> <li>・また、栄南学区で「市の費用負担を増やして実施すべき」と回答した人が多くなっている。</li> <li>・会員登録者アンケートの調査結果は以上である。</li> <li>・13 ページ、このページから住民アンケートの調査結果となる。</li> <li>・チョイソコやとみの認知度、利用有無について、利用したことがある人は約3%と少なく、知っているが利用したことが無い人が約70%を占めている。学区別では大藤学区で認知度が高くなっている。</li> <li>・どのような状況になればチョイソコやとみを利用するかについて、「自分で車やバイクを運転できなくなったら」「家族などに車で送迎してもらえなくなったら」の回答が多くなっている。</li> <li>・また、「運賃が安くなれば」と回答した人が思う妥当な運賃は200円が一番多くなっている。</li> <li>・「運行日数が増えれば」と回答した人が思う妥当な運行日数は7日（毎日）が一番多く、次いで5日が多くなっている。</li> <li>・14 ページ、チョイソコやとみが飛島公共交通バスと乗り換え可能なことについて、「知らない」と回答した人が約90%とほとんどを占めており、認知度が低い印象である。</li> <li>・チョイソコ通信の認知度について、見たことがある人、知っている人が一定数いるものの、知らない人が大半であり、認知度が低い印象である。</li> <li>・15 ページ、きんちゃんバス、チョイソコやとみの運行の必要性について、「両方必要」と回答した人が一番多く、約65%を占めている。</li> <li>・チョイソコやとみの利用有無別では、利用したことが無い人のほうが「両方必要」の回答割合が高くなっている。また、チョイソコやとみを利用したことがある人は「チョイソコやとみのみ必要」の回答割合が高く、利用したことがない人は「きんちゃんバスのみ必要」の回答割合が高くなっている。</li> <li>・今後の市の費用負担について、「現状の市の費用負担のまま実施すべき」という回答が一番多く、次いで「市の費用負担に関わらず実施すべき」「市の費用負担を増やして実施すべき」の順に回答が多くなっている。</li> <li>・また、栄南学区と比べて、大藤学区で「市の費用負担を増やして実施すべき」と回答した人が多くなっている。</li> <li>・住民アンケートの調査結果は以上となる。</li> </ul>
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 16 ページ、このページからきんちゃんバス南部ルート利用者アンケートの調査結果となる。</li> <li>・ 直近のきんちゃんバスの利用頻度について、「週に 5 日以上」「週に 3～4 日」の回答が多く、きんちゃんバスをよく使う人が回答していることがわかる。</li> <li>・ チョイソコやとみの認知度、利用有無について、「知らない」と回答した人が半数以上を占めており、利用したことがある人は全体の 15.8%となっている。</li> <li>・ チョイソコやとみの利用頻度ときんちゃんバスの利用頻度について、チョイソコやとみの利用頻度として「週に 1 日程度」「月に 2 日」の回答が見られ、チョイソコやとみ導入前と比較したきんちゃんのバス利用頻度は「変わらない」「減った」の回答が見られる。</li> <li>・ 17 ページ、きんちゃんバスがなくなった場合、チョイソコやとみがあれば移動に問題はないかについて、「特に問題ない」と回答した人はおらず、「運賃が安くなれば」が一番多く、次いで「運行日数が増えれば」「運行の時間帯が長くなれば」が多くなっている。</li> <li>・ 具体的な回答として、運賃については「100 円」「200 円」、運行日数については「7 日（毎日）」、運行の時間帯については「6 時～22 時」が多くなっている。</li> <li>・ 社会実験運行中のチョイソコやとみの利用意向について、利用したい人は 36.8%であり、今後新規利用者の獲得が見込める。</li> <li>・ きんちゃんバス、チョイソコやとみの運行の必要性について、「きんちゃんバスのみ必要」が一番多く、次いで「両方必要」が多くなっている。</li> <li>・ 今後の市の費用負担について、「市の費用負担を増やして実施すべき」という回答が一番多く、次いで「市の費用負担に関わらず実施すべき」が多くなっている。</li> <li>・ きんちゃんバス南部ルート利用者アンケートの調査結果は以上となる。</li> <li>・ 18 ページ、4) 所感・考察について、各種アンケート調査の結果を踏まえ、社会実験運行全体を通じた所感・考察をまとめている。</li> <li>・ 会員登録者数に対し実際に利用した人が少ないことから、次のステップとして、会員登録に関する周知だけではなく、会員登録者に利用してもらうための周知・取組が必要であると認識している。</li> <li>・ 試しに 1 回だけ利用した人が多く、試しに 1 回だけではなく定期的に利用したいと思う仕組みづくりが必要であると認識している。</li> <li>・ 週に 2 回、つまり運行日は毎回チョイソコやとみを利用している人もおり、少数ではあるが、特定の人の日常生活には適応していることがわかる。</li> <li>・ 今後、本格導入に向けた検討を進めるにあたり、曜日や運行時間帯について検討の余地があると感じている。</li> <li>・ 社会実験運行前後の移動手段を比較すると、家族の車での送迎からチョイソコやとみへ転換した人も多く、家族の負担軽減効果等も見込まれる。</li> <li>・ 運行曜日（回数）、時間帯、予約受付時間の 3 項目では、運行曜日について</li> </ul>
--	---

	<p>て優先的に検討・改善する必要があると認識している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄南学区で「市の費用負担を増やして実施すべき」と回答した人が多い理由として、栄南学区は大藤学区に比べて目的地まで遠く、公共交通に対する潜在的な不満があることが考えられる。</li> <li>・ (4) 社会実験運行目標の評価について、社会実験運行目標は「公共交通利用者数の増加」で、具体的な考え方は「既存南部ルート+第3期社会実験運行の利用者数が実験前の既存南部ルート利用者数よりも増加しているかどうか」としている。</li> <li>・ 「公共交通利用者数」とは社会実験運行開始前は「きんちゃんバス南部ルートの利用者数」、社会実験運行開始後は「きんちゃんバス南部ルートの利用者数」と「チョイソコやとみの利用者数」を指す。</li> <li>・ この社会実験運行目標を数値的に評価する具体的な方法は1)に記載のとおりで、指標Ⅰと設定した「既存と社会実験運行時の公共交通全体の利用者数の増減」と、指標Ⅱと設定した「既存と社会実験運行時のきんちゃんバス南部ルートの利用者数の増減」を確認する。</li> <li>・ 2) 中間評価について、ページ最下段の表のとおり、指標Ⅰと指標Ⅱの算出にあたっては「きんちゃんバス南部ルートの1便あたりの利用者数」と「チョイソコやとみの時間帯別利用者数」をもとにしている。</li> <li>・ 指標Ⅰの値は9.2で、公共交通全体として1日あたり約9人増加していることがわかる。</li> <li>・ 指標Ⅱの値は1.4人で、社会実験運行前後できんちゃんバス南部ルートの利用者数が約1人増加していることがわかる。</li> <li>・ このことから、「チョイソコやとみを導入してもきんちゃんバスの利用者は減らず、公共交通全体として利用者が増加した」ということがわかる。</li> <li>・ 以上で資料2-1の説明を終わる。</li> </ul> <p>○資料2-2説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料2-2は令和6年1月に実施予定の地域の企業や目的地停留所設置施設を対象としたアンケート（案）についてである。</li> <li>・ チョイソコの1つの特徴として、エリアスポンサーと呼ばれる協賛者を募り協賛金をもらうことで、運賃以外にも収益源を作って事業継続を目指すビジネスモデルが挙げられる。</li> <li>・ 本市の場合、現在は社会実験運行であるため、停留所となっている病院や診療所、薬局などの医療機関、スーパーマーケット、ドラッグストアなどの店舗にエリアスポンサーになっていただき協賛金をもらうことはしていないが、本格導入している他市町村ではエリアスポンサーからの協賛金が運行を持続していく上での重要な収入源となっている。</li> <li>・ チョイソコの本格導入に向けての検討材料として、現時点でどれほどの協賛金の募集が見込まれるかを把握するため、社会実験運行で目的地停留所となっていた店舗・施設や地域の企業を対象としたアンケート調査を実施する予定である。</li> <li>・ 本資料には回答者への案内文を載せていないが、回答者への案内文には</li> </ul>
--	---



	<p>社会実験運行の実績・結果や、協賛金へ協力した場合のインセンティブ例を記載し、協力後のイメージがつきやすいようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査内容については1ページ下段の表に記載のとおりで、店舗・施設や企業の名称、業種、住所や実証実験中のチョイソコやとみの停留所設置の有無などの回答者に関する項目と、協賛金への協力意向の有無やその具体的な金額、協賛金へ消極的な理由と、前向きになるためにはなどの協賛金に関する項目を想定している。また、回答者が魅力を感じるインセンティブについても確認し、今後の検討の参考となるアンケート構成を想定している。</li> <li>・これらの調査内容を調査票形式に記載した案が2ページ以降となっている。</li> <li>・以上で資料2-2の説明並びに、議題1 第3期南部地域社会実験運行についての説明を終わる。</li> </ul>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見、ご質問があればお願いします。</li> </ul>
大島委員 (弥富市福寿会 連合会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日当たりの乗車数15人という設定をされているが、これは費用面から設定したのか。アンケートでも費用が出てくるが、費用対効果という費用面が全然見えてこない。利用した人1人に対してこれぐらい市が負担しているというところがはっきりわからない。だから15人という設定はどうされているのかが見えてこない。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15人は費用対効果というポイントではなく、チョイソコの仕組みを導入している他市町で人口レベルが同じぐらいの地域を参考に算出した数字になる。</li> </ul>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この目標に関しては費用の部分は全く考えていないということである。ただ、それだけだと今のご質問に対して納得いただけないところがあると思うが。</li> </ul>
大島委員 (弥富市福寿会 連合会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回1人当たりいくら負担されているのか。400円もらって、その人に対していくら負担しているか、そういう感覚が全然見えてこない。市の費用負担をもっと増やしたら利用者が増えるというアンケートが出ているが、皆さんはアンケートで何を基準にして費用を出しているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チョイソコやとみの実証実験の予算額では約800万かかっている。それを利用者数で割ると1人当たりの運行経費が算出される。</li> <li>・公共交通のトータルで予算が約1億1000万かかっている。その金額をベースとして考えたときに、それよりさらに増やしながら公共交通を継続していくのかということをお聞きさせていただいたものになる。</li> </ul>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すごくお金がかかっている。それを示した上でアンケートを取ったということである。</li> </ul>
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の話に関連して、後半では400円が高い。他の市もそうなのだろうが、費用対効果を含めてどのようにシステムを持っていけば継続してやっていくのか、そういうところを概略でもいいので示してほしい。市としてこのために何百万も使うということでもいいと思う。後々老人が増えてくる。世間では25年問題と言われて、どんどん増えてくる。周知すればするほど利用者が増える。増えれば増えるほど赤字が増える。どのようにしていくかという仕組みづくりが要る。</li> <li>・協賛金の話もあるが、どのように協賛金をもらえるのか。協賛金はいくらなら出せるのかという項目があるが、そうではなく、これだけ必要な</li> </ul>

	<p>んだ、将来の弥富市民の足としてどうしても必要になるというものをトータル的に整理する必要がある。他市町でもこういう問題を抱えていると思う。名古屋市のような大きいところならいくらでも行けると思うが、小さい市ではどのように将来に向けて、5年でダメになったというのではなく、知恵を集めて、あるいは先進的にやっているものを踏まえて、費用対効果に対しての費用の絵を描く必要があるのではないか。アンケートを含めて、将来そういう方向に持っていかれると思うが、その点を危惧する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗合率はどういう意味を持っているのか。乗合率はわかりにくい。</li> </ul>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前半の話は交通政策だけでなく、市全体の政策を包括的に検討していかなければいけないということになってくると思う。</li> <li>・2つ目の言葉の説明をお願いします。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かに公共交通というのは非常に難しい問題になっている。民間のバスがもともと弥富市内でも走っていたが、収益が見込めないということで、当初は補助金という形を導入しながら継続を模索した。しかしそれでも赤字経営が続き、撤退となった。その後を担っていくのが行政の公共交通となってくる。収益事業として黒字経営というのは難しい分野である。赤字を減らすということで、スポンサー制を導入するチョイソコを1度社会実験し、目的停留所となる企業に聞きながら、少しでも運賃収入以外の収益を確保しながら持続可能な公共交通を模索していきたい。</li> <li>・乗合率についてだが、チョイソコは10人乗りで、1人で運行するともったいない。効率的にするために乗り合っていたきたいということで乗合率を設定した。メリットとして同乗者割引を設定し、少しでも乗り合って目的地に行っていたきたい。</li> </ul>
米澤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先日体験として2人で乗ってきた。いこいの里にハイキング気分で弁当を持ってチョイソコに乗った。20分ぐらいで着いた。乗り心地もよかった。思ったより早く着いた。また時間になったら帰ってきた。宣伝をしっかりとすれば皆さん利用するのではないか。高齢者は時間がたくさんある。団体で温泉など行ってもよいのではないか。宣伝すれば増えると思う。</li> <li>・費用対効果はしっかりしなければいけない。例えばきんちゃんバスを含めて地域のスポンサーが付くか否かが重要であると考えている。名古屋市でもそうだし、桑名市では、柿安シティホール、ヤマモリ体育館、NTN総合運動公園という形で施設の名前を売っている。きんちゃんバスに企業の宣伝を入れるとか、協賛金をいただいた〇〇号とか、ロゴを入れてはどうか。他市の市バスでも広告が載っている。協賛する人たちの心意気、地域でやっている以上は市民のためにやれるようなことということで、そういう宣伝をやってはどうか。</li> </ul>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PRが不足しているのではないか。知ったら乗ってくれるのではないかという話があった。あと1カ月、どれだけやれるかわからないが、実証実験ということでPRしていく。</li> <li>・実際に乗られて、よいことがわかったということは、それを皆さんに広めていただくとよい。</li> <li>・協賛の話は事務局のほうで考えているところだと思う。意見として今後の検討に使ってほしい。</li> </ul>
五藤氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートにはなかったが、弊社のドライバーの評価があれば励みにな</li> </ul>

<p>(あんしんネット21)</p>	<p>るかなという印象があった。弊社は6月から運行している。その報告をさせていただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故はなかった。トラブル、苦情、走行マナー、一般車両からの苦情もなかった。</li> <li>・仲良くなった利用者からドライバーにいろいろな情報が入ってくる。皆さんの声で圧倒的に多いのは、12月からどうなるのかということである。実証実験は終わるが、今後もよろしく願いするという利用者に伝えると、今後というのは12月なのか、1月なのかという質問がドライバーに多く集まってきている。それは待ってほしいとお答えしている。</li> <li>・利用者からコーヒーチケットのようなチケットがあってもいいのではないかという声があった。</li> <li>・運行していると大体同じ方で、ドライバーとも意思疎通ができるようになると、地元で取れた野菜とか差し入れを毎日のようにドライバーがいただいている状況である。</li> <li>・多くの方に乗っていただければ、チョイソコの必要性や運行の必要性をわかっていただけたらと思う。今後どのように市の方がアイシンに協力いただけるかというところを期待している。</li> </ul>
<p>山崎議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者アンケートに無い項目として、車内の環境やドライバーの対応と事故の無い状況も伝えていただいた。</li> </ul>
<p>多田委員 (名古屋タクシー協会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前にも確認したかもしれないが、再度確認させていただきたい。資料2-1のP.1、評価検証の矢印のところ、既存の南部ルート+社会実験運行の利用者数という書き方をされているが、チョイソコを本格運行したとしても、既存の南部ルートは併存という方針には変わらないということでのよいのか。</li> <li>・P.2、予約不成立件数の推移とあるが、9月は予約件数が上がって、その反面予約不成立が下がった。この要因は何か。予約の不成立が6件、6件、6件、3件というのは多いと見るのか少ないと見るのか。他市町ではどういう状況か。</li> <li>・今後更に予約が増えればどうなるか。1台の車では回り切れず、サービス低下が起こる。予約不成立がどうなっていくのかが大きなポイントになるのではないか。</li> <li>・協賛の話もいろいろ出ているが、これはそちらのほうでも確認させていただきたいと思っている。</li> <li>・チョイソコやとみは、きんちゃんバスとの併存を検討されている感じがするが、チョイソコやとみの目的をどのように設定するのか。それによって利用者がどのような使い方をしていただけるのか。こういうところが大きなポイントになるのではないか。この時間帯では通勤通学には使えない。にもかかわらず、時間帯を延ばすほうがいいというご要望もある。400円は高い、200円ではどうかという指摘もたくさんある。それをどのように整理するのか。このアンケートを見ただけでは方向性が定まっていないという気がしている。アイシンさんにもご協力いただき、市の方針としてはこうなんだということも考える中で、費用対効果という話も当然出てくる話だと思う。お金だけの問題ではなく、どのようなサービスで、どのような方が、あってよかった、お出かけがたくさんできる、そういう環境を作っていくことだと思う。このアンケートを見た</li> </ul>

	<p>中ではそういうことを思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タクシー業界の現状をお話する。バス業界でもタクシー業界でも運転手不足は大変な状況になっている。最終的には民間企業が経営する公共交通に頼り切っているのは、公共交通はいずれ崩壊していこうと言われていた。タクシー業界もバス業界も頑張って運転手を確保していけばよいのだろうが、公共交通に限らず、どの業界も人材不足である。そういう中でいかに競争していくかということは、民間企業の経営では破綻している状況である。そういったことを費用対効果等の部分に絡めてどのようにしていくかというのは市長のご判断かもしれないが、ぜひそういった方針を市民の方、利用者の方にはっきりとご提示していただくことではないだろうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きんちゃんバスとの併用という話であるが、当初から地域に説明に上がるときに、朝の通勤通学の時間帯は高校生の利用がかなりの数を占めているため、8時台ぐらいまではきんちゃんバスを走らせ、日中の時間帯についてはチョイソコのみでの運行に切り替えていくという考えで地域の方にご説明していたところである。全く同じ時間帯にチョイソコときんちゃんバスが走る形ではない。</li> <li>・チョイソコの運行目的については、日中の移動困難者の足として活用していただける形でチョイソコの社会実験を行った。地域の皆様から、9時からの運行という話をしたときに、病院の予約は早い時間からやっているの、8時ぐらいから運行してもらえないと難しいというご意見があったため、アンケートで時間を皆さんにお伺いしたという流れになっている。</li> <li>・予約の不成立については、アイシンに確認したところ、オペレーターの対応が慣れてきたところもあり、上手に時間帯のご案内ができるようになった。また利用者が混雑時間帯を把握し、混雑時を避けて予約してくれるようになった部分が大きいと聞いている。</li> </ul>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予約不成立が6、6、6、3であるが、全体の予約数が2桁、3桁であるため誤差の範囲ではないかと感じる。全体の予約数から見れば少ないのではないか。</li> <li>・今後本格的にやっていく場合は、定時定路線運行とデマンドをうまく利用者の目的に合わせて使い分けていくようなことを想定しているということである。あくまでもチョイソコのデマンドは日中の高齢者である。日中の高齢者の利用と言いつつ、実験では病院の予約を考えてもう少し早くしてほしいという要望があったということである。そのあたりを今後検討していく。</li> <li>・運転手不足については、業界の存続が危ぶまれている状況の中で、行政はどうしていくのかということはどこも大きな課題になっているところである。そこは政策的な話になる。</li> </ul>
伊藤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P.3の利用者数で、大藤学区は多いが、栄南学区は少なくなっている。栄南の一番多いところはいこいの里だと思う。住民がなかなか利用していないと思う。大藤は結構利用しているが、栄南は利用されていないという理由がわかれば教えてほしい。</li> <li>・P.17、⑥きんちゃんバス、チョイソコやとみの運行の必要性についてだが、「きんちゃんバスのみ必要」という答えが結構多いが、この理由は何か。半年で11名の方が、これも大藤と栄南と同じぐらいかわかれば知り</li> </ul>

	たい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 停留所の内訳については、資料3については利用者数が多い停留所になっている。栄南学区についてはいろいろところで使っていただいている実態はあるが、目的地がどうなのかというところが多いのか、停留所の乗降者数については詳細な分析ができていない。</li> <li>・ P.17のきんちゃんバスがなくなった場合、チョイソコやとみの部分であるが、アンケートの回答者数が19という大きい数字ではないが、基本的にきんちゃんバスの利用者に向けての回答になっているので、自分のニーズに合った時間帯にこのバスがあるということで、特に問題がないのではないかと考えている。その方がチョイソコやとみを利用しようとするれば、運賃が発生するし、希望の時間帯に走っていないという形になるので、今現在自分のニーズに合った時間帯での運行がされるきんちゃんバスがあれば不自由はないという考えがあつてのご回答をいただいたと思う。</li> <li>・ 内訳については、アンケートの学区別では、大藤学区で4人回答をいただいている。そのうち、きんちゃんバスのみ必要は1名。栄南学区で3人回答いただいている、その方が3人ともきんちゃんバスのみ必要という回答をいただいている。</li> <li>・ 市内の上記以外の住民の方は7人回答をいただいている。4割の方がきんちゃんバスのみ必要という回答をいただいている。</li> </ul>
伊藤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私の憶測も含めてだが、大藤と栄南で、きんちゃんバスのときも栄南学区は大藤に比べて利用者が少なかった記憶がある。大藤の人たちは買い物に使っていたりしていたと思う。栄南学区は通学がメインだったような記憶がある。大藤と栄南では利用が違うので分けて考えるほうがよいのではないかと。大藤はチョイソコときんちゃんバスで賄えると思うが、栄南はきんちゃんバスも利用していないし、チョイソコも利用者が少ないという感じになると、分けたほうがよいのではないかと。</li> <li>・ チョイソコだと通学の時間がないからきんちゃんバスがよいのかなと思ったが、それはわからないが、栄南学区の説明会のときもバスは要らないという強めの意見が結構多かったと思う。そこは分けて考えて、栄南は朝晩の学生たちを運ぶのは、きんちゃんバスではなくて、チョイソコの車が空いているのであれば、それを使って運んだらよいのではないかと。</li> <li>・ チョイソコではなくタクシー券の配布に変えることや、チョイソコの利用者が少ないのならばタクシーの補助をするような形を検討しても良いと感じた。</li> </ul>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域ごとのもっと狭いエリアで考えていったらどうかという意見であつた。それも含めて今後考えていっていただきたい。</li> <li>・ 料金について、高齢者はきんちゃんバスを無料で乗れるため、無料で乗れるのに対して400円ということで比較が難しいところがある。</li> <li>・ ほかによろしいか。1月に企業へのアンケート調査を実施するというところで、チョイソコの重要なところはいかに協賛金を得るかということである。チョイソコだけではなく、企業から協賛金を得るというやり方はいろいろところでやられている。定着するとよいと思う。アンケートをしっかりとっていただきたい。</li> </ul>

#### 4.議題

##### (2) 無料お試し乗車券について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(2) 無料お試し券について、継続して実施しているが、事務局から説明をお願いします。</li> </ul>
事務局 (富居)	<p>○資料3 説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無料お試し乗車券について、資料3をもとに説明する。</li> <li>・2 ページ、配布結果について、今年度は昨年度と同様に夏休み期間の約2ヶ月間、弥富市居住の全世帯及び小学生を対象に実施した。</li> <li>・無料お試し乗車券の利用枚数は1,015枚で、前年度より少し少なくなっている。</li> <li>・新規利用者数については、108人と昨年度よりも22人多く、直近5年では1番多い結果である。また、全13回の中でも比較的多い結果となっている。</li> <li>・3 ページ、無料お試し乗車券利用者の年齢層は、「15～64歳(高校生除く)」が47.3%と最も多く、「高校生」は4.3%となっている。</li> <li>・昨年度と比較すると「15～64歳(高校生除く)」「小学生」「中学生」の利用が増加し、「高校生」「65～74歳」の利用が減少している。</li> <li>・4 ページ、無料お試し乗車券配布以前のきんちゃんバス利用の有無について整理した結果、無料お試し乗車券を通じた新規利用者は108人となっており、昨年度に比べ22人増加している。</li> <li>・新規利用者の内訳としては、高校生除く15～64歳が最も多くなっているが、小学生も多くなっている。</li> <li>・5 ページ、クルマの運転免許の保有状況は、免許を持っていない方が多く、昨年度と同様の傾向がある。</li> <li>・6 ページ、「買い物・外食・旅行・遊びなどのお出かけ」が46.8%と最も多くなっており、昨年度よりも多くなっている。その要因として、昨年度に比べて新型コロナによる行動制限が緩和されたことが考えられる。</li> <li>・今後の利用意向は、「利用したいと思う」がほとんどを占めており、初めてきんちゃんバスを利用した人(新規利用者)においても「利用したいと思う」方が95%を超えている。</li> <li>・以上で無料お試し乗車券についての説明を終わる。</li> </ul>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見、ご質問はあるか。無料お試し乗車券は平成23年から10年以上継続して取り組んでいる。新規で利用した方を集計している。</li> <li>・乗る機会を1度体験していただきつつ、無料で乗れるので、その代わりにアンケート調査をさせていただいている。</li> <li>・これは今後も継続していくということでよいか。すごくいい取り組みだと思う。</li> </ul>

#### 4.議題

##### (3) 総合福祉センター工事休館に伴うきんちゃんバス無料乗車券の配布について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より説明をお願いします。</li> </ul>
事務局 (富居)	<p>○資料4 説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合福祉センター工事休館に伴うきんちゃんバス無料乗車券の配布につ</li> </ul>

	<p>いて、資料4をもとに説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合福祉センターの天井改修工事に伴い、浴室を含む多くの施設が利用休止となっている。</li> <li>・よって、これまで総合福祉センターの浴室をご利用いただいていた方が、工事期間中に「十四山総合福祉センター」または「いこいの里」の浴室を利用するためにきんちゃんバスを利用される場合に限り、令和5年9月15日（金）から「十四山総合福祉センター」または「いこいの里」への無料乗車券（往復分）を配布している。</li> <li>・本件については、開始に併せて市HPにて公表し、周知をしている。</li> <li>・総合福祉センター工事休館の概要並びにきんちゃんバス無料乗車券の配布の詳細は、資料下段の表に記載のとおりである。</li> <li>・10月28日（土）時点での配布枚数は、十四山総合福祉センター分104枚、いこいの里分40枚となっている。</li> <li>・以上で総合福祉センター工事休館に伴うきんちゃんバス無料乗車券の配布についての説明を終わる。</li> </ul>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告ということであるが、ご意見、ご質問はあるか。</li> <li>・確認だが、無料乗車券というのは、利用者にとっては無料だが、行政側で負担しているということでしょうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうである。運賃としては無料だが、かかった分を市が三重交通に支払っている。</li> </ul>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その負担は協議会予算ではなく、市のほうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会予算である。三重交通に年間の委託契約があり、運賃がかかった分について、三重交通に運賃分として払っているが、最終的に委託枠から運賃分を引くので、全体として差は生じないようにしている。</li> </ul>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉セクションの持ち出しかと思っていた。この協議会の予算を使うということは、やってからの報告ではなく、無料の料金を設定するのではないので運輸局上の手続きはよいが、協議会に1度諮ってほしかった。ここの予算を使っているということは私も認識していなかった。</li> <li>・既に実施しているということであるが、ご意見、ご質問はあるか。</li> </ul>
岡本委員 （愛知県運輸支局）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認だが、工事はいつまで続くのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事は2月29日までの工期となっている。</li> <li>・</li> </ul>
岡本委員 （愛知県運輸支局）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両方とも2月29日か。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合福祉センターの工事は2月29日である。</li> </ul>
岡本委員 （愛知県運輸支局）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その工事が終われば元に戻すというイメージか。</li> </ul>

事務局	・そうである。工事が終わり次第、利用についても通常どおりになる。
米澤委員 (公募委員)	・この料金をここの予算で出すということだが、原因は施設を改修するためである。市の福祉施設を工事するのであれば、そちら側が持つべきではないか。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理屈として、私としてもそこに視点があつた。私と事務局の意思疎通が十分でなかった。</li> <li>・ほかにはよろしいか。これは実施しているということであるので、協議会のメンバーの皆さんにお認めいただくも何も、今から中止はできないので、このまま続けていただく。</li> <li>・以前から十四山総合福祉センターを使っていた人が、私たちになぜ券をくれないのかという話が出てこないように、そこは気をつけていただきたい。</li> </ul>

#### 4.議題

##### (4) チョイソコヤとみの停留所の新設・移設について

山崎議長	・事務局より説明をお願いします。
事務局 (富居)	<p>○資料5 説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チョイソコヤとみの停留所の新設・移設について、資料5をもとに説明する。</li> <li>・現在、社会実験として運行しているチョイソコヤとみでは、会員登録者からの要望に応じ、事業主体である弥富市が承認した停留所については新設、移転、廃止をすることができる。</li> <li>・8月8日に5つの停留所の新設と1つの停留所の移設、10月1日に1つの停留所の新設と1つの停留所の移設があり、現在は計265箇所の停留所がある。</li> <li>・これらの停留所の新設・移設については、チョイソコ通信8月号・10月号にてチョイソコ会員登録者へ案内・周知をしている。</li> <li>・チョイソコヤとみの停留所の新設・移設に関する詳細は資料中段の表に記載のとおりである。</li> <li>・また、新設・移設された停留所の位置や設置状況については2ページ以降に記載のとおりである。</li> <li>・以上でチョイソコヤとみの停留所の新設・移設についての説明を終わる。</li> </ul>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗降場には簡単な表示だけをしている。バス停を道路上に置くということではない。これは費用がかかるわけではなく、地域の意見を踏まえつつ、新設・移設をしている。</li> <li>・ご意見、ご質問があればお願いします。</li> <li>・今月末までであるが、この後、さらに新設の意見が出てきた場合はどう対応するのか。</li> </ul>
事務局	・周知する場がないため、これ以上の新設はない。
山崎議長	・市民の方には一言いただきたい。八木さん、いかがか。
八木委員 (弥富市区長会)	・市民代表ということで出席しているが、区長会として話し合った結果の話ではなく、個人的な話で恐縮だが、デマンドバスについて、単純に市の予算が1億1000万で、月平均1000万である。細かいことはわからない。



	<p>いが、公共交通を市で運営していただいているということは市民へのサービスだと思う。市民にとってはありがたいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私も高齢者だが、まだ免許返納には至っていない。自分が運転できないときにこういう取り組みがあるということはご存じの方は多いと思うが、自分が乗れなくなって初めて必要だとわかるのではないかと。チョイソコやとみときんちゃんバスを設定した目的をはっきり市民にわからせるようなアピールも必要だと思う。</li> <li>・大藤は栄南より利用が多いという話があったが、実際栄南の方は蟹江駅に出られたほうが便利だと思う。そういう地理的な条件もあると思う。</li> <li>・確認だが、11月でお試し期間が終わるが、数値的に設定に達していないと廃止するという話を聞いたが、それは事実なのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者数が13人、目標は15人なので、中間地点では達していない状況である。目標値に達しないから絶対やらない形かどうかは皆さんと協議しながら、アンケート結果を踏まえながら、トータル的に判断してまいりたいと事務局としては考えている。</li> </ul>
八木委員 (弥富市区長会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうすると、なくなる可能性もあるのか。</li> </ul>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終的には事務局側で案を作り、この協議会の中で諮っていく。</li> <li>・佐藤さん、いかがか。</li> </ul>
佐藤委員 (民生・児童委員協議会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の方とお話しすることが多い。きんちゃんバスの停留所が家のそばにないということで、チョイソコの停留所が近くにあって利用されている方が多いと思う。ずっと続けていかれるとよい。</li> </ul>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小林さん、お願いします。</li> </ul>
小林委員 (弥富市女性の会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達や議員などに聞くと、栄南のほうが利用する方が少ないということで、東末広のほうは飛島村のバスを利用する方が多い。大藤学区は中間地点なのでチョイソコを利用する方が多い。個人的に思うのは、大藤からチョイソコを走らせて、大きな停留所を大藤学区に持ってくるようにすれば利用する方が多いのではないかと。</li> <li>・週2回だが、もう少し増やせば利用する方が多いのではないかと。</li> <li>・朝晩の通学利用者はきんちゃんバスを利用して、真ん中の時間帯はきんちゃんバスをなしにして、チョイソコが走って大藤学区のところ大きな停留所を作る形にすれば、もっと利用価値が上がるのではないかと。</li> </ul>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特性を踏まえて効率よくということである。事務局は今後の検討に生かしていただきたい。</li> </ul>

#### 4.議題

##### (5) その他

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その他について、事務局から説明をお願いします。</li> </ul>
事務局 (富居)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その他として、現在のきんちゃんバスの利用状況、南部地域社会実験運行バスについて、参考資料1の利用者実態調査結果をご覧いただきたい。</li> <li>・令和5年9月までのデータを集計している。</li> <li>・1ページ目、乗車人員の推移について、前年9月までの実績に対する比率は、どのルートも前年度比が1を上回っており、南部ルートは約25%、東部ルートは約13%、北部ルートは約7%増加している。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2 ページ、1 日あたり平均乗車人員について、令和 5 年度は全ルートにおいて令和 4 年度に比べて増加している。</li> <li>・また、1 便あたり平均乗車人員についても、令和 5 年度は全ルートにおいて令和 4 年度に比べて増加している。</li> <li>・3 ページ、月別乗車人員の推移について、令和 5 年度の全ルート計は、4 月から 6 月にかけて増加し、学生の夏休み期間である 7 月、8 月にかけて減少したが、8 月から 9 月にかけて増加している。</li> <li>・次にルート別の月別乗車人員の推移について、4 ページ目の高齢者が多く買い物利用が中心の北部ルートでは対前年度比 1.07。</li> <li>・5 ページ目の買い物や通勤・通学利用が多い南部ルートでは対前年度比 1.25。</li> <li>・6 ページ目の高齢者が多く公共施設利用が中心の東部ルートにおきましては対前年度比 1.13 となっている。</li> <li>・コロナ禍前である令和元年度と比較すると、東部・北部ルートはコロナ禍前の水準まで回復していないが、南部ルートはコロナ禍前の水準を上回っている。</li> <li>・以上で、参考資料 1 の説明を終わる。事務局からの報告事項は以上となる。</li> <li>・愛知県からチラシの説明はあるか。</li> </ul>
小出委員 (愛知県交通対策課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2 件情報提供させていただく。</li> <li>・このアプリ 1 つで愛知のおでかけをもっと便利に楽しくというチラシから説明する。MaaS の実証実験をジブリパークの開業に際して 2021 年から行っている。今年度は 9 月 15 日までの 5 カ月間、トヨタファイナンスサービスが提供する my route を活用して実施している。今年度の実証実験ではアプリ内で購入できる交通券や観光施設のデジタルチケットをはじめ、各種サービスが利用できる。配布しているチラシに QR コードがあるので、ダウンロードしてご活用いただきたい。</li> <li>・もう 1 点、エコモビリティ実践キャンペーン 2023 のチラシを配布している。本県では車と公共交通、自転車などを賢く使い分けるライフスタイル、エコモビリティライフを県民運動として推進している。その一環として県内の企業や団体の皆様にエコ通勤をはじめ、エコモビリティに積極的に取り組んでいただくキャンペーンを実施する。皆さん方にもぜひご参加いただくとともに、企業、団体の皆様への参加の働きかけ等にご協力いただくようお願いする。</li> </ul>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その他はよろしいか。委員の方からここでお伝えすること、全体を通してご意見はあるか。</li> </ul>
八木委員 (弥富市区長会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これは私たち関係者しかいただけないのか、回覧という形でもよいので配布をお願いしたい。あとは事務局にお任せする。</li> </ul>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こういう会議の場で配るものなのか、地域に回覧するような形にはどうか。回覧の手続きは簡単にできるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市としては回覧する部数さえ揃えていただければ可能である。</li> <li>・昨日、中日新聞の愛知県広報のページに掲載があったと思う。</li> </ul>

小出委員 (愛知県交通対策課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシについては大きい駅に置いている。各種団体にはお送りしている。回覧していただけるようであれば、事務局を通して回覧いただきたい。</li> </ul>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県は600万人ぐらいいるので各戸配布は難しいと思う。新聞にも記事が載っているということである。</li> <li>・これで議事はすべて終了した。事務局にマイクをお返す。</li> </ul>
5. 閉会	
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山崎先生ありがとうございました。</li> <li>・次回第3回協議会は12月25日(月)午後2時からを予定している。追ってご案内させていただく。</li> <li>・以上で、第2回弥富市地域公共交通活性化協議会を終了する。今後ともご協力賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございました。</li> </ul>
	以上